

【開会】

高原孝生（たかはら・たかお／明治学院大学教授、PRIME 所員）

10時半になりました。皆さん、おはようございます。早速、パグウォッシュ公開講座、今年度の第2回を始めたいと思います。この連続公開講座は日本パグウォッシュ会議、それから世界宗教者平和会議日本委員会、そして明治学院大学国際平和研究所の三者で共催しております。

まず、共催者の代表挨拶ということで、徳増公明先生にお願いできればと思います。先生のプロフィールは皆さんがアクセスできると思いますが、今日のプログラムに詳しく載っておりますけれども、先生は世界宗教者平和会議日本委員会理事でいらっしゃる、ストップ！核依存タスクフォース運営委員をなさっています。日本ムスリム協会の前会長でいらっしゃるし、拓殖大学イスラーム研究所名誉教授でもいらっしゃいます。徳増先生、お願いいたします。

【共催者挨拶】

徳増公明（とくます・きみあき／WCRP 日本委員会理事、
ストップ！核依存タスクフォース運営委員）

ただいま紹介されました、日本ムスリム協会の徳増と申します。本日、私はイスラームの立場から少し話をさせていただきます。この数年間、コロナウイルスは世界中に広がり、人々に大きな犠牲と不安をもたらし、私たちは大きな衝撃と恐怖心を抱きました。しかし、一方で私たちは様々なことに気づかされ、また、教訓を得ました。その最たるものは、命の大切さです。コラーンには、人を殺すものは全人類を殺したのと同じである、人の生命を救う者は全人類を救ったのと同じである、と命の大切さを教えています。命は神から与えられたもので、私たちは、人生を全うするまで命を大切に守る義務があります。

私たちは、核兵器が簡単にこの大切な命を奪ってしまう事を知っております。だからこそ、私たちは、多くの人々に核兵器の廃絶を訴えることが大切です。また、戦争被爆国の日本が、その先頭に立って行動を起こすことも重要です。私たちが、国益や国威発揚のために核兵器を保有し、他国に脅威を与えようとしている人たちに対して強く訴え、また、神から与えられた英知によって、対応を通してこの問題を解決するよう努力すべきです。米国の核の傘のもとにいる日本ですが、米国国民も核兵器に対する思いは日本国民と同じだと思います。日本政府が自ら核兵器禁止条約に批准し、勇気をもって米国政府に対して、条約に向けた強い働きかけをして欲しいと思います。

本日は、アメリカン大学教授、ピーター・カズニック先生から講演をしていただくことができ、大変嬉しく思います。最後に、核兵器のない世界が1日も早くやってくることをお祈りいたします。

高原：

徳増先生、ありがとうございます。引き続きまして、日本パグウォッシュ会議代表、広島大学教授でいらっしゃる稲垣知宏先生からご挨拶をお願いします。

【共催者挨拶】

稲垣知宏（いながき・ともひろ／日本パグウォッシュ会議代表）

日本パグウォッシュ会議代表の広島大学、稲垣と申します。本日は世界宗教者平和会議日本委員会、明治学院大学国際平和研究所と我々日本パグウォッシュ会議が共催する連続講座にご参加いただき、ありがとうございます。日本パグウォッシュ会議は、核廃絶と戦争のない世界、この二つの実現を2本の柱とするラッセル＝アインシュタイン宣言に賛同する科学者、研究者を中心とした会議の日本グループになります。核廃絶と戦争のない世界の実現には、市民の皆様と共に考えていくことが重要と考え、連続講座「核時代における非戦」を企画してまいりました。今年2月に始まったウクライナ戦争は、様々な国際的な取り組みにも関わらず、終息への道程というのは困難を極めています。過去のリスクも、ロシア・ウクライナ間だけではなく、国際的に大きく変わってきている、といったような現状もあるかと思えます。

個人的な話になりますが、私のロシア、ウクライナ、共に共同研究者がいるのですが、そういった彼らとの交流、研究の推進というのも難しくなっていると感じております。本日は、ピーター・カズニック先生のご講演を伺い、日米の市民はウクライナ戦争から何を学びとるべきかについて、市民の皆様と共に考えていければと考えております。よろしく願いいたします。

高原：

ありがとうございます。今日は講演者としてピーター・カズニック先生をお招きしていただき、先生のご紹介もかねて、ここからは奈良大学教授の高橋博子先生、高橋先生は

日本パグウォッシュ会議の運営委員でもいらっしゃいます。マイクを今お預けしたいと思
います。この後の司会進行、どうぞよろしくお願いします。

高橋博子（たかはし・ひろこ／奈良大学教授、PRIME 研究員）：

奈良大学教員でパグウォッシュ会議運営委員、さらに明治学院大学国際平和研究所研究
員の高橋博子です、ここからは、私が司会をさせていただきます。まず、今日講演してい
ただくピーター・カズニック教授について紹介いたします。カズニック教授は、アメリカン大
学の歴史学部教授です。私も歴史学を研究しているのですけれども、常々、大変尊敬してい
る素晴らしい研究者だと思います。アメリカン大学核問題研究所の所長をされておりまし
て、ラトガーズ大学から歴史学の博士号を取得されております。さらに、公民権運動やベト
ナム反戦運動、ベトナム反戦運動については、もう高校時代から関わられているという、そ
ういう経歴をお持ちで、今現在も反戦と核廃絶への努力を続けられております。

1995 年にエノラゲイが修復されるということで、それにちなんで原爆展を、スミソニアン
航空宇宙博物館で企画展をしようという試みが、スミソニアン航空宇宙博物館にて 1990
年代に企画されるのですけれども、退役軍人会の反対や、さらにアメリカ上院によって反対
決議満場一致で採択されるなど、実質上中止を受け、原爆展ではなくエノラゲイ展として開
催されます。その一方で、この時にアメリカン大学構内で原爆展が広島市と共同で開催され
ました。その時に中心となって動かされたのがピーター・カズニック先生なのです。

1995 年以来、毎年学生とともに日本に来て、広島・長崎を訪問して、さらには日本の学
生と交流し続けてきております。日本語でも読める著作もかなりたくさんありまして、『オ
リバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史』が早川書房から出ております。木村朗
氏との共著の『広島・長崎への原爆投下再考』、こちらは法律文化社から出ております。ま
た、さらには、『原発とヒロシマ』、こちらは岩波ブックレットから出ております。

このように、日本語でもかなりたくさん著作がありますけれども、本日はロシアのウクラ
イナ侵攻を受けて、日本の政治家、安倍元首相を中心として核共有が日本国内で叫ばれてお
りますけれども、そうした日本の動向も危惧して今日はピーター・カズニック先生に話しい
ただけるといふふうに思います。カズニック先生、どうぞよろしくお願いします。

(校正：高橋博子)